

## これからのロータリー クラブ、不易流行

福井あじさい 中村 敏雄

先日、廣畑富雄バスターガバナー(第二七〇〇地区)が書かれた『ロータリーの心と原点』の本を読みました。

この著書の「ロータリーの心を考えるには、ロータリーの創立者ポール・ハリスが、なぜロータリーを創立したのか、学ぶ必要があります」の一節が大変心に残りました。

二〇一一年私がロータリーに入会した時、今は亡き淡島洋大先輩が「まず『手続要覧』を読みなさい。何事も原点に立ち返ることが大切だ」とおっしゃったことが今も深く心に残っております。その後、クラブ幹事を務めた時には、この「ロータリークラブの基本姿勢に立ち返る」という一節は、私の心の支えになっておりまし

た。

さて、二〇一六年の規定審議会では多くの重要な決定が行われ、クラブに柔軟性と自主性を、という方向性が示されました。このことは、今後の活動にとって大変良いことだと思っておりますが、ややもすれば、ロータリーの基本から離れていくことにならないだろうか、少々危惧を覚えるのは私だけでしょうか。

昨今話題の「二〇二五年問題(超高齢化社会到来の問題)」ですが、現状のロータリークラブにも大きな影響が出始めていると感じています。しかし、その対応策を間違えると、会員増強ばかりに捉われて、さらに組織の維持だけばかりを考えていくことになりはしないか、と思うのです。

ロータリークラブの目的には、地域を発展させることも含まれると考えます。そのためには、各種会議や奉仕活動の見直し、クラブ同士での共通の奉仕活動の実践、また、より有意義な活動のためクラブの合併など、単に会員を増やすことだけではなく、いろいろな視点からそのあり方を考えていくべきではと思えます。

人のために自分が役立つことは何か、を常に考え実践すること、「四つのテスト」を基本におのおのが天職である職業に奉仕し、そして、ロータリークラブがボランティア団体に近い組織に偏ってしまうのではなく、その精神を守り地域に奉仕していくことが、今一番大切なことではないかと思うのです。

変えてはならないものは変えずに順守し、同時に変えるべきところは勇気をもって変えていく。「原点を守る」と「新たな変化を遂げ

ること」、この「不易流行」の精神こそが、これからのロータリークラブには大切なことではないでしょうか。

社会における責任の重大性を認識しながら、さらに発展していくことを切に願っているところです。ロータリアンのご意見をお聞かせいただけましたら幸いです。

(第二六五〇地区 福井県 農業)